

秋まき小麦の赤さび病・赤かび病防除

1. 秋まき小麦の生育状況

生育は平年より進んでいます。今後も生育状況を観察し、防除適期を逃さないよう努めましょう。

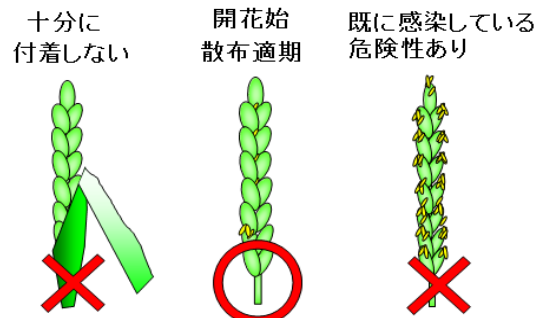
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	遅速	これまでの生育期節		
				起生期	幼穂形成期	止葉期
本年	29.5	1,822	+5	3月19日	4月28日	—
平年	29.8	1,681		4月7日	5月3日	5月29日
前年	33.0	1,565	+2	4月3日	5月1日	5月26日

2. 赤さび病・赤かび病の防除について

※ 品種は「きたほなみ」

(1) 赤さび病

止葉を含む上位2葉の発病を抑えることが重要です。赤さび病抵抗性が「やや強」以上の「きたほなみ」「ゆめちから」は、通常、1回目の赤かび病防除との同時防除で対応できますが、「きたほなみ」では昨年秋に発生が確認されており、さらに春先からの気象経過も発生しやすい状況であるため、ほ場の確認をしましょう。



感染前の穂に薬剤を十分に付着させ保護することが重要！

(2) 赤かび病

赤かび病の感染時期は開花時期です。防除を始める前に、小麦が出穂して「開花始（右図）」を迎えたことを必ず確認しましょう。

表2 赤さび病・赤かび病の防除体系例

	防除時期	薬剤名	対象病害		倍率	系統名	使用回数
			赤さび	赤かび			
1	開花始	シルバキュアフロアブル (またはリベロ水和剤)	●	●	2,000	DMI	2 (3)
2	～7日後	ベフトップジンフロアブル		●	1,000	グアニジン・MBC	1
3	～7日後	シルバキュアフロアブル (またはリベロ水和剤)	●	●	2,000	DMI	2 (3)

※同系統の薬剤の連用は避けましょう。

※使用回数はシルバキュアフロアブルが融雪後2回以内、ベフラン及びベフトップジンフロアブルが出穂期以降1回です。

※アブラムシ多発時は殺虫剤（例：ウララ DF4,000倍、スミチオン乳剤1,000倍など）を使用する。

※ベフトップジンフロアブルは劇物なので取り扱いに十分注意する。